

スターリン全集刊行会訳

スターリン全集

第三卷

大月書店刊

ス タ ー リ ン 全 集

一九五二年九月二十五日発行

定価 四八〇円

第 三 卷

訳 者

スターリン全集刊行会

発 行 者

東京都文京区本郷一ノ五
小林直衛

印刷 者

東京都千代田区内幸町二ノ二〇
株式会社太平印刷社

製 本 者

東京都千代田区錦町三ノ二四
株式会社田中製本所

発 行 所

東京都文京区本郷
一丁目一五番地

大

月

書

店

電話小石川(92)三〇九一番
振替・東京一六三八七番

訳者はしがき

一 本巻は、ソ同盟共産党（ボリシェヴィキ）中央委員会付属 マルクス・エンゲルス・レーニン研究所編集の『イ・ヴェ・スターリン全集』第三巻の翻訳である。

一 スターリンの原注は*をもつてしめす。そのほかの注は、日本の読者の便宜を考え、原書の編集者注を参考にして、訳者がつけたものである。ごく簡単な注は角がっこ「」にかこんで本文中にいられたが、他は事項注と人名注とにわけ、本文の終りに一括してつけた。人名は、本文のなかに出てくるかぎり、原則としてすべて注をつけることにした。事項注は本文に出る注番号の順に、人名注は「アイウエオ」順に、それぞれ排列した。

一 原文のゴシック体の箇所は訳文でもゴシック体にし、隔字体の箇所には傍点をつけ、頭文字だけでくんである箇所は活字をいちだん大きくした。ただ見出しのところは、かならずしもこの方針によらなかった。

一 本文のうえの欄外にある算用数字は、翻訳底本とした原書のページ数をしめす。

一 翻訳の参照は、マルクス、エンゲルスについては、『マルクス・エンゲルス選集』（大月書店版）、レーニンについては、『レーニン二巻選集』（社会書房版）によった。したがって角がっこ「」中の巻数、分冊数、ページ数は、右の二つの選集の巻数、分冊数、ページ数である。

一 人名、地名は現地の発音に近く表記することを原則としたが、慣用のものについては、それをもちいたばあ

いが多い。

一 日付は、とくに断りのないばあいは、すべて旧暦である。それを新暦になおすには、十三日をくわえればよい。

一 翻訳は、それぞれ担当の訳者がまず訳出し、これに校閲者団が、各国語訳および邦訳をも参照しつつ、厳密に校訂をくわえ、さらに術語、用字、文体などの整理、統一をおこなって完成したものである。

序 文

第三卷は、一九一七年の大十月社会主義革命の準備期に属するイ・ヴェ・スターリンの基本的な諸著作をおさめている。

一九一七年にはイ・ヴェ・スターリンは、ヴェ・イ・レーニンとの緊密な協力のもとに、国家権力の奪取をめざしてたたかっていたボリシェヴィキ党と労働者階級とを指導した。

第三卷に印刷されているイ・ヴェ・スターリンの諸著作では、六月デモと七月デモの日々における、またペトログラードの区会と市会選挙におけるボリシェヴィキ的大衆指導の諸問題（『ペトログラードの全勤労働者、全労働者および兵士諸君にうつたえる』という呼びかけ、『ばらばらのデモンストレーションに反対する』、『都市自治体の選挙戦』、『なにがおこったのか』、『隊列を堅く結べ』、『きよりは選挙だ』その他の諸論文）、またコロネーロフの反革命的進出を粉砕した当時のボリシェヴィキ的大衆指導の諸問題（『われわれは要求する』、『陰謀はつづけられてゐる』、『外国人とコロネーロフの陰謀』その他）、さらにまた一九一七年九月から十月にいたる、武装蜂起の直接の準備期における、ボリシェヴィキ的大衆指導の諸問題（『民主主義會議について』、『二つの方針』、『待つならいつまでも待つがよい』、『反革命は動員されつつある、——反撃を準備せよ』、『鎖をきたえている』、『あつかましさを試験』その他）が、いちじるしい部分を占めている。

この巻の一連の諸著作は、またソヴェトを大衆動員の機関から蜂起の機関に、プロレタリア権力の機関に転化させるための、党の斗争の問題をとりあつかっている（ロシア社会民主労働党（ボ）ペトログラード組織緊急会議とポリシエヴィキ党第六回大会における報告、『全権力をソヴェトへ』、『ソヴェトの権力』、『革命のストライキ破り』、『われわれにはなにが必要か』の諸論文）。

この巻に印刷されているイ・ヴェ・スターリンの諸論文は、その大部分が、『十月革命への道』という本に発表されたものである。この本は、一九二五年に二回にわたって出版された。なお、これらの論文は、はじめは『プラウダ』紙——ポリシエヴィキ党の中央機関紙で、また『プロレタリー』、『ラボーチー』、『労働者』、『ラボーチー・プーチ』、『労働者の道』という名でも発行されていた——や『ソルダートツカヤ・プラウダ』、『兵士の真理』、『プロレタリアスコエ・ジエーロ』、『プロレタリアの事業』、『ラボーチー・イ・ソルダート』、『労働者と兵士』その他のポリシエヴィキ系新聞に印刷されたものである。

ソ同盟共産党（ボ）中央委員会付属

マルクスⅡエンゲルスⅡレーニン研究所

目 次

序 文	三
一九一七年	
勞働者・兵士代表ソヴェトについて	一五
戦争について	一八
大臣のいすへの途上	二四
ロシア革命の勝利の諸条件について	二七
民族的制限の撤廃について	三三
あれか——これか	三七
連邦制度に反対する	四〇
二つの決議	四九

土地を農民へ……………	五二
メーデー……………	五五
臨時政府について……………	五八
マリヤ宮殿での協議について……………	六三
ロシア社会民主労働党（ボ）第七回（四月）協議会……………	六六
一 現段階の問題についての同志レーニンの決議案を擁護した演説……………	六六
二 民族問題にかんする報告……………	七〇
三 民族問題にかんする結語……………	七六
革命から立ちおくれた人々……………	七九
われわれは協議会になにを期待したか……………	八五
都市自治体の選挙戦……………	八八
きのうときょう（革命の危機）……………	一〇三
ばらばらのデモンストレーションに反対する……………	一二二

ペトログラードの自治体選挙の結果によせて	一五
ペトログラードの全勤労者、全労働者および兵士諸君にうったえる	二三
デモンストレーションを見て	二六
隊列を堅く結べ	三二
ロシア社会民主労働党(ボ)ペトログラード組織緊急会議における演説	三三
一 七月事件にかんする中央委員会の政治演説	三九
二 現段階についての報告	四二
三 提出された覚え書にたいする回答	四五
四 結 語	五二
なにがおこったのか	五五
反革命の勝利	五九
カデットの勝利	六三
ペトログラードの全勤労者、全労働者および兵士諸君にうったえる	六六

二つの会議	一七四
新しい政府	一七六
憲法制定議会の選挙によせて	一七八
ロシア社会民主労働党（ボ）第六回大会における演説	一八六
一 中央委員会政治報告	一八六
二 結 語	一九八
三 政治情勢にかんする報告	二〇一
四 政治情勢にかんする報告についての質問への回答	二〇九
五 結 語	二二三
六 決議「政治情勢について」の第九項の問題でのプレオブラジェンスキー への反論	二二八
資本家たちはなにを欲してるか	二三三
モスクワ会議に反対する	二三八
ふたたびストックホルムについて	二三三

モスクワ会議はどこへ行く.....	二二七
反革命とロシアの諸民族.....	二四二
二つの道.....	二四九
モスクワ会議の総結果.....	二五四
戦線におけるわが国の敗北の真相.....	二五六
戦線における七月の敗北の原因について.....	二六三
戦線における敗北の責任者はだれか.....	二七三
アメリカの数十億.....	二七八
きょうは選挙だ.....	二八二
挑発の時代.....	二八八
「社会革命」党内の分業.....	二九一
黄色分子の同盟.....	二九五
あれか——これか.....	二九九

われわれは要求する	三〇五
陰謀はつづけられている	三二〇
ブルジョアジーとの妥協に反対する	三二六
危機と執政内閣	三二八
わが道を行く	三三三
カデットとの絶縁について	三三五
第二の波	三四〇
外国人とコルニーロフの陰謀	三三八
民主主義会議について	三四二
二つの方針	三四八
全権力をソヴェトへ！	三五二
革命戦線について	三五五
鎖をきたえている	三六〇

ブルジョア独裁の政府 三六五

反 響 三六九

鉄道ストライキと民主主義の破産者 三六九

ロシア農民と愚か者の党 三七二

労働者征伐 三七四

待つならいつまでも待つがよい 三七七

反 響 三八一

「にえぎらない人々」の党とロシアの兵士 三八二

権力をにぎっている陰謀者ども 三八三

紙のうえの連合 三八五

反 響 三八八

農村はうえている 三八八

工場での飢餓 三九〇

わが身をむちうつ	三九三
革命にたいする陰謀	三九五
憲法制定議會をとりやめようとしているのはだれか	四一七
反革命は動員されつつある、——反撃を準備せよ	四二〇
予備議會はだれに必要か	四二三
ソヴェトの権力	四二六
あつかましさの試験	四三〇
革命のストライキ破り	四三四
中央委員会會議における演説	四三一
「私はたいへんふとった牛にとりまかれた」	四三三
われわれにはなにが必要か	四三八

事項 訳注

人名 訳注

スターリン年譜（一九一七年三月—十月）

四九〇

四七七

四五三

一九一七年

三月—十月

